

***食べては飢える人間**

私たちの日常生活において食べることはとても大事だ。なぜなら、食べ物体が造り、健康を維持して、肉体の調子を整える働きをするからだ。それから、食べることは肉体を維持するためだけではなくて、心の満たし、喜びにもつながる。スイーツでお腹も心も満足することがある。しかし、残念ながら一時的で、また新たな満足を求めて、新作のスイーツを追いかける。

ヨハネの福音書6章の初めは、5千人の給食(供食)と呼ばれる奇跡が、主イエス様によって行われた。少年が差し出した五つのパンと二匹の魚が、イエス様の祝福の祈りによって、主の御手から溢れ出るほどに増えて、増えて、男だけで5千人の人々を満腹にした。これを体験した人々は、イエス様が王様になれば、国は豊かになる、食べ物に困らない、と考へた。群衆はイエス様を王様にするために連れて行こうとするが、イエス様は逃げる。主は人々のお腹を満たす王様になるために来たのではない。群衆は逃げるイエス様を探し出そうとする。いわゆる、「追っかけ」だ。それは御ことばを求める追っかけではなく、パンを求める追っかけである。いつの時代でも、人々は食欲で、お腹が満たされても、もっと求める、もっと欲しいと、人間は欲望の塊なのだ。ついに、イエス様を追いかけていた群衆は、カペナウムまで来て、イエス様に会う。

***決して飢えることのない食べ物**

イエス様と追いかけて来た群衆との対話が始まる。その中で、35節「イエスは言われた。「わたしがいのちのパンです。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。」

主イエスは、ご自分のことを、「いのちのパン」であると宣言している。これは、とても重要な証言だ。ぜひ、覚えておいてほしい。「いのちのパン＝イエス・キリスト」そして、イエスの元に来る者は、どんな時も、決して飢えることも、渴くこともない。これは、私たちが食べても食べても、また空腹になるような食べ物とは違ふ。この世界は、人間の欲望を満たそうと、いろいろな物を食べてきたし、いろいろな物や、さまざまな娯楽を開発して来た。しかし、また飢える。また渴く。その繰り返した。人生はまことに虚しい。ところが、主イエス・キリストと言う「いのちのパン」を信じて、頂く者は、決して飢えることも、渴くことも無い。「いのちのパン」と言う食べ物は、私たちが愛の源である父なる神様と繋げて、私たちの心を造り変えて、愛の溢れた人格者にしてくれる。私たちの心を整えて、心の調子も良くしてくれる。

今、あなたは、何に渴きを覚えておられるだろうか？ 心に決して渴くことのない「いのちのパン」キリストを頂いているだろうか？